

**浦和レッズ後援会  
30周年記念セミナー  
開催実績**



第1回

# We are REDS! For Next 20 years

～ REDS 050th の未来に向けて～

浦和レッズ後援会設立30周年記念事業 キックオフセミナー

## 地域に愛されるクラブの形

# We are REDS ! ゲスト講師が紡ぐメッセージ



**understandに立つ  
地域の課題を解決するリーダーになるべき**

◆ 祖母井秀隆（元サッカー選手、指導者、GM、経営者）

# 2023年2月6日「地域に愛されるクラブの形」

## ▼参加した後援会会員からの声

### ●イベントのご意見

- ・アヤックスやゲンクの話は勉強になった。埼スタの改修をして後援会専用の交流会スペースを作ってもらいたい。

### ●浦和のまち関連のご意見

- ・浦和レッズがある街に住みたいと多くの人に言ってもらえるような街づくり（人とのつながり）にも好影響を与えるような存在になりたい。

- ・浦和の街の日常にもっとレッズが関わっていくための取り組みをしてもらいたい

- ・20年後には新しいスタジアムを浦和駅周辺に作ってほしいです。

- ・under standの意味を深く感じて埼玉市民として、浦和区民として浦和レッズの生末を感じていきたいと思いました。さいたま市内のこども、高齢者や障害者、商店街などへもっと選手やチームがアプローチしている取り組みがある浦和レッズであってほしいです。

- ・20年後は旧浦和市を実体験として知らない世代がかなり多くなると思われるが、浦和レッズを通して旧浦和市地域がまとめられたいと願います。地域とのつながりをもっと増やすべきという考えに共感します。

- ・まず、日本サッカー、Jリーグをもっと作り上げないと未来は明るくならないと思う。それをできるのが浦和レッズだと思うしなるべきだと思う。ただ最近は浦和の街から熱を感じない気がする。

# 2023年2月6日「地域に愛されるクラブの形」

## ▼参加した後援会会員からの声

### ●後援会への要望

- ・クラブに意見のあげられる後援会になってほしい。
- ・後援会の立場で色々とレッズの力になれるように考えてほしい。

### ●クラブへの要望

- ・浦和レッズらしさをつきつめる必要がある。365日魅力的な埼玉スタジアムを作っていくべき。
- ・スタジアムを中心としたスポーツセンターを作してほしい。

### ●育成関連

・選手（トップチームだけでなくユース、ジュニアユース世代）とファンサポーターの交流が当たり前になり文化として根付いているハードソフトを作っていくこと。出来上がっていることが大切でそこに浦和レッズが今後より成長できるヒントがあるのではないかと思います。

- ・埼玉県の高校生が第一に選ぶようなクラブになることを期待します。

### ●選手との交流について

・お話をしていた選手との気軽な交流が実現できるとこどもの時からクラブへの愛着心が芽生えると思う。

浦和レッズ後援会設立30周年記念セミナー



第2回

# We are REDS!

## For Next 20 years

～ REDS 050th の未来に向けて～

第1部

### メディアから見た浦和レッズの影響力



浦和レッズ後援会  
URAWA REDS SUPPORTERS' ASSOCIATION

# We are REDS ! ゲスト講師が紡ぐメッセージ



レッズのサポーターは日本一  
浦和はサッカー王国で在り続けなければならない

◆ 勝村 政信 (俳優)

みんなが憧れるようなスタイルで  
スタジアムの空気を創り出すべき

◆ 水沼 貴史 (元サッカー選手、指導者、解説者)



# 2023年4月16日「メディアから見た浦和レッズの影響力」

## ▼参加した後援会会員からの声

- ・浦和という恵まれた土壌がある中、サポーターが何事に置いてもリスペクトされる存在になることが大切と感じた。
- ・「浦和」は特別な地域、浦和の人でなければ分からないものがあると分かった。
- ・世界に向けて発信されることの影響の大きさを再認識した
- ・名実共にトップを取れるようにこれからの浦和を作る必要があると実感できた。
- ・浦和レッズというクラブのみならず、小中高など街全体を含めた「浦和」に対する認識を聞いて、とても楽しかった。

## ●クラブへの要望

- ・サッカー界でレッズが常にリーダーシップを取れるようなクラブであってほしい
- ・埼玉・浦和の愛がすごいのがサポーター（後援会）の凄さだと分かった。愛し続けられるようなチームの姿勢（選手だけでなく運営も）が必要。





第2回

# We are REDS!

## For Next 20 years

～ REDS 050th の未来に向けて～

第2部

欧州事例にみるクラブ経営への参画手法



# We are REDS ! ゲスト講師が紡ぐメッセージ



サポーターがいざとなった時にクラブを助ける  
“ホワイトナイト”になれる仕組みを

◆ 谷塚 哲 (東洋大学 講師)

ドイツクラブのように地域の声を聞く仕組みで  
日本のサッカー文化の熟成に貢献を

◆ 釜崎 太 (明治大学 教授)



# 2023年4月16日「欧州事例にみるクラブ経営への参画手法」

## ▼参加した後援会会員からの声

- ・もともとはドイツを参考にしたもので、この30年間で日本独自の形態になっていることを改めて認識した。地域に根ざしたクラブをめざすとき、ドイツの方法を常に意識して、日本、あるいは「浦和」に合ったやり方が見つければいいのかな、と思った。
- ・ドイツの仕組みは以前より知っていたが、日本においてあまり注目されておらず、それこそ浦和レッズが取り組む価値があると思った。
- ・この様な機会を増やして頂きたいと思います。有料でもいいので、市民講座のようにコースを設けて開講するのはどうでしょうか？
- ・Jリーグの理念に立ち戻ることの重要性を改めて認識し、次世代の人に繋ぐ必要がある
- ・十数年サポーターをしてきて“浦和レッズ愛”の素晴らしさを身に染みて感じています。この愛がどんどん育って行く事を心から願っています。
- ・新しく流入してくる市民への認知度を高める事が必要
- ・レッズはサポーターの数も熱量も日本一だと感じているのでドイツのような形でよりサポーターと共に成長するクラブになって欲しいです。
- ・海外の手法を参考に日本から発信しその起源が浦和であることを願いたい

# 2023年4月16日「欧州事例にみるクラブ経営への参画手法」

## ▼参加した後援会会員からの声

### ●欧州のクラブ経営参画手法(ソシオ/サポーターズトラスト/50+1)への反応

- ・オーナー企業ではなく非営利団体の仕組みだったり、興味ある話がきけた。安定経営の仕組み「ソシオ制度、サポーターズトラスト」団体でクラブの株を買う、企業、自治体、非営利法人、地域住民の仕組みが今後の課題、勉強になった。
- ・ドイツのクラブ経営が市民によって運営されていることを知り、勉強になりました。地元の市民による出資の提案は大変面白いと思った。
- ・経営参画主体としてNPOのメリットと50+1ルールが機能していることが良く分かった。
- ・今までは地域密着の具体的な部分まで理解できていなかったが、海外では市民が経営にダイレクトにかかわっている部分は興味深かった。
- ・「50+1」の仕組みが面白かった。極力企業が入り込まないチーム経営の実現を願います。
- ・ドイツでの「50+1ルール」を知り為になりました
- ・総合型地域スポーツクラブとしてレッズの株式を保有する。またはサポーターズトラストとして保有。もしくは新しいシステムを作り上げるなど、サポーターが公的にレッズと関わる仕組みを構築していきたい
- ・「物言うサポーター」の市民権を得るために必要な組織改革の在り方が良く分かった。

# 2023年4月16日「欧州事例にみるクラブ経営への参画手法」

## ▼参加した後援会会員からの声

### ●クラブへの要望

- ・モデルケースとして、率先して新しい流れを作るべきクラブだとおもう。
- ・浦和レッズで本当のサポーターになるためにソシオ制度、株主制度を作してほしいです。
- ・浦和レッズはソシオ制度、スポーツシューレをぜひ検討していただきたい。
- ・独立採算といわれるレッズには市民も養ってもらおう組織であってほしい。後援会、シーチケ民がメインになってくれると思います。
- ・クラブには存在意義を改めて認識し、地域の幸せの為に活動してほしい、近年のクラブ運営は正しい方向に向かっているとは思えない。Jリーグのリーディングクラブとして恥ずかしくないマネジメントをお願いしたい。
- ・レッズじゃなきゃできない事があるので、先を見て真のビッグクラブになってほしい
- ・チケット購入やスタジアム周辺の施設、駐車場等の充実化を目標とした設備投資は今後とも積極的にお願いしたい。新規サポーターにはまだ意地悪な感じがあると思います。これからも頑張っていきましょう！
- ・Jリーグの先頭に立ってクラブの仕組みを良い方向に持って行ってほしいです
- ・三菱に文句はないがサポーターもクラブ経営に参画させてほしい。

# 2023年4月16日「欧州事例にみるクラブ経営への参画手法」

## ▼参加した後援会会員からの声

### ●クラブへの要望

- ・Jリーグが発足し30年、浦和レッズのカラーが見えてこない。めざすサッカースタイルだけでなく、クラブとしてどのように地域と関わり合うのか伝わってこない。サッカーの街としてクラブを中心にもっと盛り上げていきたい。
- ・新規ファンですが、浦和は古いファンばかり大事にしている印象。このままでは新しいファンは増えないと思います。
- ・クラブ運営に対してサポーターとして参画したいのでドイツの50+1を日本でも可能な形を模索してほしい
- ・浦和レッズがドイツのような経営手法をとるのは難しいと思いますが、日本国内では実現してほしい
- ・フィロソフィーが変わらずチームが掲げた事と、その経緯をつまびらかにしてほしい
- ・レッズが地域の中心であってほしいと思います。
- ・レッズがリーグ内で先駆けてドイツのようになってくれるといいなとおもいました。
- ・育成、他スポーツもクラブの一員に

# 2023年4月16日「欧州事例にみるクラブ経営への参画手法」

## ▼参加した後援会会員からの声

### ●後援会への要望

- ・浦和レッズというサッカーチームをどうしたいのかというビジョンが見えてこないので、後援会から一言言ってほしい
- ・サポーターが真のサポーターになるべき方向を考えていくべきだと思わされた。企業に左右されないためのクラブの在り方が必要だと思う。
- ・日本一のサポータークラブを目指せ / 真のサポーターズクラブになってほしい
- ・かねてから浦和レッズがソシオ制度になれば良いと個人的に考えておりました。今回、それが夢物語ではないと実感したことが参加して1番のお土産でした。50年後、浦和レッズが本当の意味でサポーターのものになっていることを夢んでいます。後援会の新たな役割期待しております。

浦和レッズ後援会設立30周年記念セミナー



第3回

# We are REDS!

## For Next 20 years

～ REDS 050th の未来に向けて～

7月7日(金) 19:00～

WEリーグ高田チェアと考える女子サッカー躍進のカギ



浦和レッズ後援会  
URAWA REDS SUPPORTERS' ASSOCIATION



# We are REDS ! ゲスト講師が紡ぐメッセージ



**浦和レッズレディースの躍進は  
女子サッカーの存在感を大きくし  
日本社会にとっても好影響を与えられる**

◆ 高田春奈（公益社団法人日本女子プロサッカーリーグ理事長）

**9万人超の観客を集めるバルサ女子戦  
日本の女子チームで達成できるクラブは  
浦和レッズレディースでありたい**

◆ 安藤梢（三菱重工浦和レッズレディース選手）



# 2023年7月7日「WEリーグ高田チェアと考える女子サッカー躍進のカギ」

## ▼参加した後援会会員からの声

- ・ レッズレディースの今シーズン、バックスタンドに少年団が沢山来ていた試合は、子供たちがとても盛り上げてくれて「これだよ！」と思わせてくれる雰囲気でした。
- ・ 現在のサポーターの高齢化が問題。次の世代へつなぐことが必要
- ・ トップチームがビッククラブだが、地元をもっと大切にしてほしい
- ・ なかなか難しい問題だが、レディースをトップ同様に扱っていると未来は無いと思う。
- ・ 勝利や強いことは大切ですがクラブがぶれないことが大切。埼玉スタを満員にしたい。
- ・ 人と人の繋がりから観戦に至る人を増やせるかがカギだと思う。
- ・ 続けること。地元地域との親睦も
- ・ 男女共に地元との交流、特に子ども達と一緒にサッカーをする機会を増やしてスタジアムに来てもらうきっかけが大切だと思う。

## ●クラブへの要望

- ・ 家族や子供、女性が楽しめるスタジアム作りを期待しています。
- ・ 浦和の地域よりもっと広範囲なエリアで進めてほしい。
- ・ ソシオに近い取り組みを何とかスタートさせてほしい。
- ・ 市民の一人として文化財だと思っているのでこれからも活動してほしい。

浦和レッズ後援会設立30周年記念セミナー



第4回

# We are REDS!

## For Next 20 years

～ REDS 050th の未来に向けて～

8月24日(木) 19:00～

活躍し続ける選手の共通点と育成年代に大切なこと



浦和レッズ後援会  
URAWA REDS SUPPORTERS' ASSOCIATION

# We are REDS ! ゲスト講師が紡ぐメッセージ



地域の人を求める強くて  
面白いサッカーを確立すべき

◆山口隆文（JFAアカデミー福島女子統括ダイレクター、女子U18監督）

クリーンで魅力的な  
最高のサッカー観戦機会を守ることは  
トップクラブである浦和レッズの使命

◆都並敏史（元サッカー選手、ブリオベッカ浦安監督）



# 2023年8月24日「活躍し続ける選手の共通点と育成年代に大切なこと」

## ▼参加した後援会会員からの声

- ・サッカーを核とした地域作りが不透明になっているような感じもあるが、埼玉がサッカーの本場であり続け世界に発信していくことが大切だと思う。
- ・様々なレジャーがある中で、サッカーが選ばれる文化を作るためにはどうすればよいか、レッズの試合が満員ではない、レッズに興味の無い市民も多い。文化を作ることが大事。
- ・育成を広く考えた場合にサッカーをしている子供たちがJリーグを見られる時間に開催をしてほしい。サッカーを始めた子供たちは試合が見られなくなるケースが多い。
- ・試合の結果よりも優秀な選手を育てられる体制を整える方が育成年代の段階では大切だと思う。
- ・指導者が熱量を正しく子どもたちに伝えていくことが大切と受け取りました。
- ・「個を持つ」「自己肯定感」がこれだけ大事にされて育成を行っていることを聞いて、これからのサッカーが面白くなった
- ・テクニクはもとより、「プロとして生きていく」ための熱を伝えていくことが必要なのは意外だった。メンタルの部分も大切と感じた。

## ●クラブへの要望

- ・育成する側、される側の想いや環境が非常に大切だと思いました。これからのチーム作りにおいてユースからの人材は大きなファクターになるのでお金と時間と手間を費やしてほしい
- ・こうしたイベントを幅広く行い、多くの方々に浦和レッズの方向性を示して欲しい

浦和レッズ後援会設立30周年記念セミナー



第5回

# We are REDS!

## For Next 20 years

～ REDS 050th の未来に向けて～

11月7日(火) 19:30～

地域を豊かにする仲間づくり、サッカーの街の未来



浦和レッズ後援会  
URAWA REDS SUPPORTERS' ASSOCIATION

# We are REDS ! ゲスト講師が紡ぐメッセージ



浦和レッズのファンはみんなが営業マン  
クラブと一緒にになればバルセロナのようなクラブに

◆岡野 雅行（元サッカー日本代表、ガイナーレ鳥取GM）

アイデンティティが大事。  
サッカークラブ以上の存在になるよう舵を切るべき

◆岩本 義弘（TSUBASA代表取締役、南葛S C代表取締役専務兼GM）



# 2023年11月7日「地域を豊かにする仲間づくり サッカーの街の未来」

## ▼参加した後援会会員からの声

- ・ サッカーには夢があると再認識しました。
- ・ 地域に根ざしたクラブ活動の話が面白かった。
- ・ チームが継続する為に大切な事を学べた
- ・ 鳥取、南葛の取り組みはものすごく興味を持った。新小岩駅前のスタジアムはうらやましく思った。
- ・ 関東リーグの事は知らないことが多かったが勉強になった。もっとクラブの未来について考えていくことが必要だと感じました。
- ・ 営業活動をもっと行っていくことに大賛成です。
- ・ 真のビッグクラブを目指しましょう！
- ・ 30年前、浦和生まれの息子と駒場に通い、幼い息子が大好きだった岡野さんと呼んでいた頃が懐かしい。岡野さん自身の魅力そのままに地域の特性を生かして活躍されているのには感動しました。味の素スタジアムについて感じましたが、やっぱりスタジアムは駅近につくるべきです。
- ・ 岡野さんの鳥取県というフィールドをフルに活用した営みに感銘を受けました。もはやガイナーレだけでなく地域を代表した営業マンだと感じます。
- ・ 岩本さんのおっしゃった“三菱に寄りかからずに発展していく道筋”は大変興味深く思います。株式会社が解禁されたいま、市民を巻き込んだ株式会社クラブとして、新しいクラブの形を日本に提案するステージにあるのではと感じました。今後10年で300億クラブを誕生させていくために、浦和レッズこそ新しいアジア、日本、浦和を巻き込んだ新しい提案が必要だと感じます。